

課程 全日制

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		標準 現代の国語（第一学習社）							
補助教材等		標準 現代の国語 学習課題集（第一学習社） 意味から学ぶ常用漢字（第一学習社）							

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>(3) 言葉のもつ価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会にかかわろうとする態度を養う。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業です。高校での学びや社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけてください。積極的な授業参加を期待します。</p> <p>○この授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。自分の考えをどのように他者に伝えるか工夫を凝らし、表現力を磨きましょう。</p> <p>○国語の基礎的な学力を高めるため、漢字練習帳や教科書準拠課題集を使って家庭学習をしましょう。繰り返し学習することが大切です。</p> <p>○国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から読書に親しみ、語彙力を増やし、表現の幅を広げましょう。知らない言葉に出会ったら辞書で調べることで豊かな日本語の力が身につきます。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を増やし、文章に含まれる情報を適切に理解し取り扱うことができる。	目的や場に応じた情報収集を行い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを深めることができる。	目的や見通しをもって学習活動に参加し、積極的に自己の考えや感性を深めようとするができる。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業への取り組み ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一 学 期	4	オリエンテーション		1		
		世界を広げる	「なぜ本を読むのか」(又吉直樹)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考える読書の効用について、文章構成をもとに理解し、自分に照らして考えを深める。 ・図書館オリエンテーションを通して、高校図書館の利用方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b) ・読書の意義と効用を理解し、本に親しもうとしている。(c)
	5	世界を広げる	「世界は謎に満ちている」(手塚治虫)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界は謎に満ちている」ことを説明するための工夫を、文章の構成や取り上げられた事例から把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b)
	6	現代と社会	「イースター島になぜ森がないのか」(鷲谷いづみ)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。(a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b)
		言葉が開く世界	「言語としてのピクトグラム」(本田弘之)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例示などの修辞を理解する。(a) ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈している。(b)

	7	人間と文化	「『間』の感覚」(高階秀爾)		<ul style="list-style-type: none"> ・対比表現に着目して文章読解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b)
		人間と文化	「水の東西」(山崎正和)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に含まれている情報を相互に関連付けながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b)
二 学 期	8	言語活動①	待遇表現(敬語の学習)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手、目的、場面に応じた言葉遣いを理解している。(a)
	9	社会と人間	「弱いロボットの誕生」(岡田美智男)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b) ・動画と本文を比較し、わかったことを説明している。(c)
	10	人間と文化	「ステレオタイプの落とし穴」(原沢伊都夫)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ステレオタイプとは何かを説明するための論展開を把握し、筆者の主張について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。(b) ・本文を読んで考えを深め、実社会から題材を求めて発表している。(c)
	11	言語活動② 話して伝える	話し方の工夫(ディベート)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集、整理して伝え合う内容を検討する方法を学ぶ。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を大勢に分かりやすく伝える方法を工夫し、実践している。(b) ・積極的にディベートを聞き、観点に沿って評価している。(c)

	12	言語活動③ 書いて伝える	書き方の基本 レッスン (作文の書き 方)	7	・表記、表現の基本を理解し、意見作文の書き方を学ぶ。	・表記、表現の基本を理解している。(a) ・意見作文の書き方を理解し、実践している。(b)
三 学 期	1	現代と社会	「黄色い花束」(黒柳徹子)	5	コソボの話題と筆者の子供時代の話題との関係を把握し、子供たちに対する筆者の思いについて考えを深める。	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者の思いを読み取っている。(b)
		言葉が開く世界	「言葉遣いとアイデンティティ」(中村桃子)	5	人間関係を調整する「言葉」と「言葉遣い」の役割について、具体的事例とともに理解を深める。	・言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。(a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者の思いを読み取っている。(b)
	2 3	社会と人間	「人はなぜ仕事をするのか」(内田樹)	5	本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本質について考察する。	・話し言葉と書き言葉の違いを理解している。(a) ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、筆者の思いを読み取っている。(b)

合計70時間

課程 全日制

教科	国語	科目	言語文化	単位数	1	学年	1	科	全学科
使用教科書	新編 言語文化（数研出版）								
補助教材等	新編 言語文化 準拠ワーク（数研出版）								

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深められるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>(3) 言葉のもつ価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会にかかわろうとする態度を養う。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○「国語」はすべての学びの基礎となる大切な授業です。高校での学びや社会生活を豊かにするために必要な国語力を身につけてください。積極的な授業参加を期待します。</p> <p>○この授業では古文や漢文を学習します。古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、作品の背景を理解し、古典の世界に親しみましょう。</p> <p>○国語の基礎的な学力を高めるため、教科書準拠課題集を使って家庭学習をしましょう。特に古典は繰り返し学習することで力がついてきます。</p> <p>○国語力を伸ばすことは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から読書に親しみ、語彙力を増やし、表現の幅を広げましょう。知らない言葉に出会ったら辞書で調べることで豊かな日本語の力が身につきます。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、古典を読むために必要な知識を身につけ、言語文化に対する理解を深めることができる。	古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方を知り、自分の考えを深めることができる。	目的や見通しをもって学習に参加し、積極的に自己の考えや感性を深めようとするすることができる。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業への取り組み ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察 ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
一学期	4	オリエンテーション				
	5	地域の「ことば」	「とんかつ」 (三浦哲郎)	7	・少年とそれを支える母親、二人を見守る宿の人たちとの交流と心情を読み取る。	・作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取っている。(b)
	6	古文の世界を楽しむ	古文入門(歴史的仮名遣い、いろは歌)	3	・古文を読むために必要な基礎知識を学ぶ。 ・有名な古典作品について、冒頭部分を読む。	・古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・様々な古典作品を音読し、古典に親しもうとしている。(c)
			「児のそら寝」(宇治拾遺物語)	3	・古文に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	・古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取っている。(b)
二学期	7	日本語の中に生きる漢文	漢文入門(訓読のきまり)	3	・漢文を読むために必要な基礎知識を学ぶ。	・漢文を読むために必要な返り点などの知識について理解している。(a)
	8		格言	3	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われる言葉が漢文に由来することを知る。	・漢文を読むために必要な再読文字などの知識について理解している。(a)
	9 10 11	受け継がれる古典	羅生門	8	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。	・文章の構成を捉え、表現技法の効果を理解している。(a) ・作品内容を理解し、登場人物の心情を読み取

						<p>っている。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の感想を積極的に共有し、自分の考えを深めている。(c)
三 学 期	12 1	現代にも生 きる教え	「高名の木登 り」(徒然草)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・古文に慣れるとともに、現代に通じる教訓を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文を読むために必要な知識について理解している。(a) ・登場人物の言葉の意味を理解している。(b) ・話の内容を自分の経験と結び付けて理解している。(c)
	2 3	漢詩を味わ う	漢詩 「春暁」(孟浩 然) 「春望」(杜 甫)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の思いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩の構成や押韻など基礎的な知識について理解している。(a) ・漢詩に込められた思いを読み取っている。(b)

合計 35 時間

課程 全日制

教科	国語	科目	言語文化	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		新編 言語文化（数研出版）							
補助教材等		学習課題ノート							

1 学習の達成目標

<p>(1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深められるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>(3) 言葉の価値への認識を深め、読書から自己を向上させ言語文化の担い手として社会にかかわろうとする態度を養う</p>
--

2 学習方法（授業担当者からのメッセージ）

<p>○通常授業においては、教科書をしっかり読み、他社の意見・説明を聞き、板書事項等をノートやワークシートに記入し、積極的に自己の意見を発言すること。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価 の観点の趣旨	言葉には、文化の伝承、発展、創造を支える働きがあることを踏まえ、言語文化の特徴や歴史的背景について理解すること。	自分の体験や経験を様々な文体で表現したり、伝統や文化を踏まえた作品に対して自分の考え方や感じ方を深めたりすること。	目的や見通しをもって学習活動に参加し、積極的に自己の考えや感性を深めようとするができること。
主な評価方法	・ 定期考査の素点	・ 定期考査の素点 ・ グループでの話し合いや発表についての観察	・ 授業に取り組む姿勢 ・ グループでの話し合いや発表についての観察 ・ ノートの提出 ・ 出席日数

4 学習及び評価計画

* 評価の観点：(a)知能・技能 (b)思考・判断・表現 (c)主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価基準
一 学 期	4	文体の魅力	『名人伝』 中島 敦	5	「妙な話」の内容を正確に理解させる。 晩年の紀昌がどのような弓の境地に到達していたかを考察させる。	「妙な話」の内容を文脈の中でおおむね理解することができている。(a)(b) 学習課題を踏まえて粘り強く考察している。(c)
	5	昔と変わらない人の心	『伊勢物語』 「芥川」	4	登場人物についての的確に捉え、古典的な価値観と現代的な価値観の両方を踏まえ解釈する。	登場人物についておおむね的確に捉え、現代的な価値観を踏まえて自分なりの感想を述べられている。(a)(b) 周囲の考えを参考にしながら話し合いに参加するように促す。(c)
	6	論語のこ とば	『論語』	4	「作品解説 論語」などを参照して理解を深めさせる。 これまでの学習を振り返って課題に取り組むように促す。	『論語』の成立過程と日本への影響について、おおむね理解できている。 (a) 学習課題を踏まえて粘り強く課題に取り組んでいる。 (b)(c)
二 学 期	7 8	記録する 文学 戦乱下の 人間像	『沖縄の手記から』 田宮虎彦	5	戦後の社会状況や文化的背景と、その時代に特有の語句の意味を調べさせる。 近現代にはどのような社会情勢があり、その中で書かれた戦争文学にはどのようなものがあったかを確認させる。	それぞれの作品が成立した背景を踏まえたうえで、各作品が伝える内容をおおむね理解することができている。(a)(b) 学習課題を踏まえて周囲と協調しながら話し合いに取り組んでいる。(c)

二 学 期	9 10	詩歌を味 わう	『平家物語』 「木曾の最期」	5	それぞれの発言や行動を 整理させ、そこから人物 像を抽象化させていく。	義仲と兼平の人物像につ いて本文を踏まえておお むね理解し、指摘できて いる。(a)(b) 学習課題に従って粘り強 く話し合いに取り組んで いる。(c)
	11		俳句	4	「俳句」に対する文化的 背景についての理解を深 め、そこで用いられる語 句が持つ語感をイメージ できるようにする。	各自で選択した句が持つ 味わいを吟味したうえ で、鑑賞文を矛盾なく作 成することができてい る。(a)(b) 指示に従って鑑賞内容を 整理し、文章化できてい る。(c)
三 学 期	12 1	言葉を吟 味する	『舟を編む』 三浦しをん	4	作品内に出てくる「西 行」を例に、言葉の成立 には文化的背景があるこ とを確認させる。 馬締と西岡のやりとりを 再確認させ、彼らが目指 す辞書『大渡海』はどの ようなものであったかを 理解させる。	作品の内容をおおむね解 釈したうえで、「自分が 編集したい辞書とはどの ようなものか」を説明す ることができている。 (a)(b) 学習課題を踏まえて粘り 強く考察している。(c)
	2 3	「こと ば」の力	『葉桜と魔笛』 太宰 治	4	「葉桜」「魔笛」という 言葉が作品内でどのよう に機能しているかを確認 させる。 口笛が聞こえてきた経緯 を整理させる。	作品の展開をおおむね踏 まえたうえで、自らの解 釈を矛盾なく説明するこ とができている。(a)(b) 学習課題を踏まえて周囲 と協調しながら話し合い に取り組んでいる。(c)

合計 35 時間

課程 全日制

教科	国語	科目	文学国語	単位数	1	学年	2	科	全学科
使用教科書		文学国語（数研出版）							
補助教材等		意味から学ぶ常用漢字（第一学習者）							

1 学習の達成目標

文学作品の読解をとおして、言葉の特徴や使い方を知り、語彙を豊かにするとともに人間性を豊かにする。

- (1) 内容・構成・展開をとらえ、登場人物の人間性や社会とのかかわりを考察する。
- (2) 著者の言葉遣いの特徴や表現力を学び、実社会に必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 登場人物の思想、心情を読み取り、自己の人間性を豊かにする。

2 学習方法（授業担当者からのメッセージ）

- 「国語力」はすべての学問の基礎となるものです。国語の基礎的な学力を高めるために漢字練習帳を活用し、漢字一つ一つの意味を理解することで、正しい表記を学びましょう。
- 3年の進路に必要な作文や小論文を書くの能力は、一か月や二か月で何とかなるものではありません。日頃からの読書をとおして、語彙を増やし、表現力を身につけましょう。
- コミュニケーション能力を高めるために、登場人物の言葉遣いや心情をより深く学ぶように心がけましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価 の観点の趣旨	文体の特徴や修辞を学ぶことで、言葉遣いや表現方法を身につけることができる。	作品の内容・構成・展開を捉え、さらに登場人物の心情や社会とのかかわりを考察できる。	積極的に授業に参加することで、自己の感性を高め、他者との関わりをとおして人間性と高めよう。
主な評価方法	・定期考査の素点	・定期考査の素点 ・グループでの話し合いや発表についての観察	・授業に取り組む姿勢 ・グループでの話し合いや発表についての観察 ・ノートの提出 ・出席日数

4 学習及び評価計画

* 評価の観点：(a)知能・技能 (b)思考・判断・表現 (c)主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価基準
一 学 期	4	文学の扉	『山月記』 中島 敦	5	李徴の心情を読み解く作業を通して、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを実感する。 主体性をもって粘り強く根拠立てて物語設定の考察に取り組む。	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。(a) 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察できている。(b)(c)
	5					
	6	平成の小説	『鍋セット』 角田光代	4	作品に共感したり、疑問をいだいたりすることを通して、読書の意義と効用についての理解を深める。 自ら進んで作品内容を解釈し、根拠立ててスピーチをする。	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a) (b) 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿ってスピーチをしようとしている。(c)
		詩歌	『小諸なる古城のほitori』 島崎藤村	4	五七調や文語体について十分に理解することができている。	文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。(a)
		『永訣の朝』 宮澤賢治	4	妹への心情描写を抜き出し、そこに込められた思いを考察させることによって、言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを実感する。	宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。(b)(c)	

二 学 期	7 8	大正の 小説	『こころ』 夏目漱石	6	<p>作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深める。</p> <p>「明治」という時代性を考察する。</p>	<p>『こころ』の主題を考察する作業を通して、作品内容をおおむね解釈することができている。(a)</p> <p>『現代日本の開化』で述べられる「明治」という時代性を踏まえたうえで、『こころ』の解釈をおおむね深めることができている。</p> <p>(b)(c)</p>
	9	平成の 小説	『無用の人』 原田マハ	4	<p>語り手の視点を踏まえて「無用の人」という題名の意味を考察し、表現の特色を評価することを通して、作品内容を十分に解釈する。</p>	<p>「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。(a)(b)</p> <p>「無用の人」という題名の意味について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。(c)</p>
	10 11	昭和初期 の小説	『山椒魚』 井伏鱒二	4	<p>山椒魚の考え方や行動を正確に理解したうえで、ものの見方、感じ方、考え方を深める。</p>	<p>考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する理解が深まっている。(a)(b)</p> <p>率先して周囲と協調し、考えを整理して話し合いに取り組んでいる。(c)</p>

三 学 期	12 1	文学的文 章の創作	『物語のおわ り』 湊 かなえ	4	本文の前後の内容を考え る作業を通して、言葉に は想像や心情を豊かにす る働きがあることを理解 する。	『物語のおわり』の構成 や展開をおおむね理解し て本文の前後の内容を矛盾 なく考えることができ ている。(a)(b) 周囲の考えを参考にしな がら、話し合いに参加で きている。(c)
	2 3	昭和初期 の小説	『水仙』 太宰 治	4	語り手の視点を踏まえて 「水仙」が象徴するもの を考察する作業を通し て、作品内容を十分に解 釈する。 作品展開を踏まえて 「僕」が「水仙の絵」を 引き裂いた理由を解釈 し、他者の意見も聞くこ とで、解釈には多様性が あることを理解する。	「水仙」が象徴するもの を考察する作業を通し て、作品内容をおおむね 解釈することができ ている。(a)(b) 主体性をもって粘り強く 周囲と協調しながら話し 合いに取り組んでいる。 (c)

合計 35 時間

課程 全日制

教科	国語	科目	現代文B	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書 副教材		○新編現代文B（東京書籍） ○新編現代文B学習課題集（東京書籍） ○国語必携パーフェクト演習（尚文出版）							

1. 科目の目標と評価の観点

目 標	・近代以降の様々な文章を読む力、ものの見方・感じ方・考え方を深め的確に表現する力、読書によって人生を豊かにする態度を育てる。				
評 価	①関心・意欲 ・態度	②話す・聞く能 力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
の 観 点	国語に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとすると態度を身に付けている。	話題について、様々な角度から検討し、自分の考えを深め、意見を述べることができる。また、話す、聞く能力を高め、豊かに表現することができる。	感想文・課題作文等において、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめることができる。また、的確に文体、語句、漢字等を駆使して自己表現できる。また漢字課題については、丁寧に正確に文字を書くことを心がけている。	文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、必要に応じて、要約や詳述をすることができる。また、幅広く本や文章を読み、豊かなものの見方や感じ方・考え方を身につけている。	日常生活において、必要な基礎知識としての漢字や国語常識を身に付ける。的確に国語を読解し表現することができる。国語力の向上、社会生活の充実に意欲を持っている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	⑤	具体的な項目
定期考査	○		○	○	◎	日頃の学習成果を確認
学習状況の観察	◎	○	○	○	○	自主的かつ積極的な授業への取り組み
提出物	○		◎		○	課題帳、単元毎のノートなどの提出
出席状況	◎	○	○	○	○	授業実施数の1/5を超えて休まない

※◎＝観点中、最重視項目

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 通常の授業において、教科書をしっかり読み、板書事項をきちんとノートに整理すること。
- 意欲的に授業中に発言し、單元ごとに自分の意見・感想をノートにまとめること。
- 提出物を提出期限までに提出すること。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一学期	4月	1. 評論「最初のペンギン」(茂木健一郎)	【中間考查】	20
	5月	2. 評論「豊かさと生物多様性」(本川達雄)		
		3. 国語必携パーフェクト演習 P4～P15		
6月	4. 小説「山月記」(中島 敦)	【期末考查】		
7月	5. 随想「物語の外から」(岸 政彦)			
	6. 国語必携パーフェクト演習 P16～P23			
二学期	8月	7. 評論「もう一つの知性」(姜尚中)	【中間考查】	30
	9月	8. 小説「葉桜と魔笛」(太宰 治)		
		9. 随想「カフェの開店準備」(小池昌代)		
		10. 国語必携パーフェクト演習 P30～P39		
10月	11. 評論「未来のありか」(若林幹夫)	【期末考查】		
11月	12. 小説「カンガルー日和」(村上春樹)			
	13. 小説「ベル・エポック」(絲山秋子) 朗読のみ			
11月	14. 国語必携パーフェクト演習 P40～P49			
三学期	12月	15. 詩「竹」(萩原朔太郎)「永訣の朝」(宮澤賢治)	【期末考查】	20
	1月	16. 小説「鞆」(安部公房)		
		17. 評論「言葉は世界を切り分ける」(今井むつみ)		
		18. 国語必携パーフェクト演習 P56～P75		

合計 70 時間

課程 全日制

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2	学年	3	科	学年選択者
使用教科書	『国語表現 改訂版』(大修館)								
副教材	『「国語表現 改訂版」準拠学習ノート』(大修館)								

1. 科目の目標と評価の観点

目 標	<p>○国語常識の基礎知識の確認と習得を目指す。</p> <p>○伝え合い、わかり合うための表現活動を中心に、総合的な言語活動を通した中での問題発見や問題解決力の育成を目指す。</p> <p>○自己表現力やコミュニケーション能力の向上と、活用的手段を身につける。</p>				
評 価 の 観 点	①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
	<p>国語に関する諸課題について、関心を持ち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、その態度を身に付けている。</p>	<p>話題について、様々な角度から検討して、自分の考えを持ち、意見を述べることができる。また、話したり、聞いたりし、話し合ったことの内容や表現の仕方について自己評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。</p>	<p>課題作文について、論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめることができる。また、文体、語句、漢字等についての的確に表現できる。</p>	<p>文章の内容を叙述に即して的確に読み取り、必要に応じて、要約や詳述をしたりすることができる。また、幅広く本や文章を読み、ものの見方や感じ方・考え方を豊かにする。</p>	<p>日常生活において、必要な基礎知識としての漢字や国語常識を身に付け、それを基に自分の考えを深め、国語の向上や社会生活の充実を図る。</p>

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	④	⑤	具体的な項目
課題提出	◎	○	◎	○	○	課題作文などへの取り組みと提出期限の厳守
学習状況の観察	◎	◎	○	◎	○	自主的かつ積極的な授業への取り組み
小テスト	○	○	○	○	◎	主に「パスポート国語必携」より出題し、評価する。
出席状況	◎	○	○	○	○	授業実施数の1/5を超えない。

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ○課題の提出期限を厳守する。 ○他の教科との一斉考査（定期考査）は行わない。 ○授業時間数の1 / 5を超えないこと。 ○随時提出の課題と授業への取り組みを評価に加える。 ○自主的かつ積極的に授業に取り組むこと。
--

4. 年間学習計画

		学習の内容	考査範囲	予定時数
一 学 期	4月	教科書 10～17	定期考査 はおこな わず、提 出課題の 作品及び 小テスト により評 価	25
	5月	○文体の確認と原稿用紙、作文の書き方の練習 ・係り受け・常体敬体・敬語・文語口語 ・数テーマの作文を書く		
	6月	・3段法・反論への反論 ○自己紹介文を書く。 ・自己PRを書く		
	7月	○「履歴書・志願票」を書いてみる。 ・志願理由書を書く ○漢字（同音・同訓異義語、四字熟語、反対語等）の確認①		
二 学 期	8月	○自分の進路に関わる本を選び、読み、感想文を書く。 ～図書館の利用～	上に同じ	28
	9月	○「現代社会の問題」について考える		
	10月	・コラムを読んで意見文を書く		
	11月	○漢字（同音・同訓異義語、四字熟語、反対語等）の確認②		
三 学 期	12月	○表現を楽しむ ・好きな詩や歌詞を探す ・学生短歌、俳句、川柳、詩を書く	上に同じ	17
	1月	○人生について書く		
	2月	・これまでの自分 ・これからの自分		
	3月			

合計 70 時間